

中国海軍南海艦隊潜水艦基地の拡大

漢和防務評論 20151201 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国海軍の対台湾作戦における通常型潜水艦の重点配備基地に関する記事を紹介します。

マカオから西南西約 120 km にある南シナ海に面した下川島の潜水艦基地が 2010 年以降、拡大されつつあります。東側に隣接する上川島には 2010 年頃からミサイル快速艇大隊が配備されています。グーグルアースを利用される方は、現在島に停泊中の潜水艦の衛星写真が見られます。

KDR バンコク特電：

各種の状況から、中国海軍は、2013 年以来第 52 潜水艦基地を拡大中であることが明らかになった。潜水艦の数量は 2010 年から逐次増加、基地施設も整備され、地下化工事も完成した。地下への入り口が 1 個発見されたが、地下の内部は弾薬庫及び燃料庫である可能性が極めて高い。この基地は、過去 2 回以上の工事を経て拡大されてきた。中国海軍は、潜水艦基地に地下倉庫を建設することを好む。通常、潜水艦の出入りのために 2 個所の出口を設ける。

南海艦隊は、海南島榆林に第 32 潜水艦支隊を有しているが、地下倉庫は無い。第 52 潜水艦基地は広州軍区海軍唯一の地下倉庫を有する通常型潜水艦基地である。基地には 3 個の大型艦橋が建設され、少なくとも 5 艘以上のディーゼル潜水艦が停留できる。2010 年前後には、この潜水艦支隊の主要任務は訓練であり、多数の 035G 型潜水艦が配備されていた。しかし現在は退役しつつある。

このことから見て、南海艦隊は、南シナ海／西フィリピン海、及び台湾海峡に対する潜水艦戦力を大幅に強化していることが分かる。第 52 支隊は、第 32 支隊に比べ、台湾海峡南部の封鎖作戦において迅速に対応できる位置にある。

下川島は、台湾海峡南端からの距離が 600 KM しか無く、現在埋立中の南シナ海／西フィリピン海の 5 大島嶼からの直線距離も 1200 KM である。南海艦隊は、大型水上艦、及び核潜水艦の配備を急ぐと同時に、ディーゼル潜水艦、小型水上艦の配備も重視している。” 小型、快速、水面下” の作戦方式がかつて中国海軍作戦の伝統であった。

上川島には、第 26 ミサイル快速艇大隊が配備され、少なくとも 9 艘の 022 型ミサイル快速艇、6 艘以上の各型護衛艇が配備されている。022 艇は、2010 年前後に上川島に進出した。特に注意すべきは、上川島及び下川島の潜水艦及びミサイル快速艇である。台湾が支配する東沙群島からわずか 455 KM しかない。信頼できる戦略情報筋から入手した情報によると、1996 年、かつて中共中央軍事委員会は秘密計画を制定し、もし台湾の独立宣言等々、台湾に対する軍事的威嚇が効を奏しなかつ

た場合、中国軍は一部の外島を占領し軍民を人質に獲り、台湾内部に動揺を引起す計画であったと言う。その手始めが東沙群島占領であった。

これらの計画はすでに多少とも明らかになっているが、**KDR** は次のように考えている：来年の台湾海峡情勢の変化によって、類似の作戦計画は修正した上で引き継がれる、と。これらの背景から、南海艦隊は、上述の二つの島嶼（下川島、上川島）を軍事闘争準備の核心とする可能性がある。即ち戦争中、まず最初に東沙群島を封鎖し、その後同群島を占領、当然これらの戦力は太平島にも向けられる。**022** 艇は南シナ海／西フィリピン海演習に何度も参加している。

その他の証拠として、永暑礁等の島嶼でも拡張工事が行われている。これは海軍の工事であり、海軍の水上艦及び潜水艦埠頭が存在する。

通常の下況下で、中国が外島に人工島を建設する場合、一般に 2 つの埠頭を建設する。1 つは、大型の民用埠頭である。他は、やや小型の軍用埠頭であり、設備が整い、大型岸壁を有し、燃料タンク等附属設備も整備される。

もし **KDR** の推測が正しければ、中国海軍が永暑礁に潜水艦補給基地を建設する可能性が極めて大きく、ディーゼル潜水艦の補給能力が更に強化される。

下川島の第 52 潜水艦支隊基地の拡大は、南海艦隊のディーゼル潜水艦の数が増し、それらがルソン海峡を通過しフィリピン海に入り、台湾本島東南部を迅速に封鎖することを意味する。また第 52 潜水艦支隊は、グアム島に最も距離が近い中国海軍ディーゼル潜水艦部隊である。

以上